

令和4年度博物館事業評価

戦略指標1 資料収集と保管・活用

・地域を特徴づける資料収集と保管 ・資料データ化と収蔵資料の充実 ・地域の文化を地域で保管活用

資料1-3

定量的評価

No.	内容	単位	R4 目標値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	考え方・基準	R4内訳等説明
1	新規受入資料件数	件	20	38	27	17	当該年度の受入件数	歴史9件・民俗7件・美術工芸1件
2	収蔵資料台帳のデジタル化件数(累計)	件	85,600	82,737	85,555	88,916	年度末におけるデジタル台帳の登録件数(中期目標:R7年度100,000件)	資料紛失に係る本館資料全点確認作業の中で、一括登録資料の個別での再登録や、未登録資料の新規登録を進めたことによる。
3	新規受入資料の公開率	%	50	-	31	26	当該年度とその前年度の受入資料のうち、展示、刊行物、オンライン上などで紹介した件数の比率	受け入れ後、調査や修繕を要する資料がある。
4	収蔵品オンライン検索システム「ある蔵」における公開件数(累計)	件	12,125	11,971	11,992	12,004	年度末時点における「ある蔵」での公開件数(中期目標:R7年度12,500件)	個々の掲載情報の充実を重視する中で、件数を増やすことができなかった。
5	館内収蔵庫の点検・清掃回数	件	12	-	12	12	温湿度等環境の点検及び庫内清掃の回数	温湿度の点検を月に1回行い、適宜除湿、放熱、清掃等を実施した。
6	資料事故発生件数	件	0	0	6	0	資料の紛失、破損、汚損等の件数	

定性的評価 (A達成 Bおおむね達成 Cもう少しで達成 D達成していない)

No.	評価項目	R3 自己評価	R3 委員評価	R4 自己評価	判断基準	自己評価理由
1	計画的な資料収集が行われている。	A	B8人	A	・資料収集方針・資料購入基準に基づいている。	・方針・基準に基づき収集した。
		B		A	・現状の収蔵環境を踏まえながら、収集検討会議により受入を決定している。	・収集検討会議を毎回開催し、記録を残した。
		B		B	・資料購入評価会の構成員をあらかじめ想定し、すぐに対応できるようにしている。	・博物館協議会や文化財保護審議会経験者を想定していたが、該当案件がなかった。
2	資料の保管が確実になされ、良好な状態に保たれている。	B	C4人 D4人	B	・資料管理のフローチャートが運用されている。	・概ねフローチャートに沿って行われた。
		B		A	・収蔵庫の鍵の管理や機械警備の運用が厳格に行われている。	・鍵は施錠式キーボックスに収納し、使用時は他者の確認を必須とし、閉館時に有無を確認。 ・機械警備は夜間全館、通常時は収蔵庫で行っている。
		D		C	・資料の収蔵場所を明確にするとともに、その場所への収蔵が確実に行われている。	・使用資料の原位置収納を複数確認で行った。 ・以前から乱れている部分は、復旧途上である。 ・全点確認作業の中で適切な配置を模索中。
		C		D	・全ての収蔵施設におけるデジタル台帳作成が計画的に行われている。	・本館の全点確認作業を優先する中で、外部収蔵施設のデジタル台帳作成を一時中断中。
		C		C	・収蔵庫の温湿度計測を常に行い、必要な措置を講じている。	・空調設備が無い。常時湿度を計測し必要に応じて扉の開放や除湿機等で対応した。
3	全ての収蔵施設が計画的に運用されている。	C	C4人 D4人	C	・全ての収蔵施設について毎年現地点検を行い、必要な措置を講じている。	・年間通じて一度も行けなかった施設が複数存在した。
		D		D	・全ての収蔵施設の資料を把握し、将来的な再配置の方針が検討されている。	・各施設の資料把握は途上であり、再配置の方針も具体化していない。
4	収蔵資料の活用と見直しを図られている。	B	B3人 C5人	B	・デジタルデータの公開活用が推進されている。	・「ある蔵」や「文化遺産デジタルアーカイブ」で推進しているが、利便性に改善の余地有。
		C		C	・未整理資料や再整理を要する資料の活用に向けた確認・整理作業が推進されている。	・伊場遺跡群弥生時代資料の再整理などを進めたが、未着手のものが多く。
		A		A	・他館への資料貸出や画像提供、資料閲覧への対応が適切に行われている。	・適切に対応した。

自己評価

分析・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【収集】収集方針・購入基準に沿って行い、収集検討会議も経緯や理由等を記録した資料を残すなど適切に行われた。</li> <li>・【保管】鍵の持ち出しや資料を戻す際に他者の確認は適切に行われた。一方、収蔵庫の飽和状態は慢性化し、外部収蔵施設は環境・保安面の課題を抱えるが、再配置の具体化は今後の検討である。</li> <li>・【活用】 デジタルデータの公開活用をさらに推進していく必要がある。また、活用に向けた資料整理も未着手のものが多くが計画的に進めていくべきである。</li> </ul>
-------	--

博物館協議会からの意見・評価

氏名:	定性No.1	定性No.2	定性No.3	定性No.4	意見・評価・提案等
見直し(要or不要)					
評価(A~D)					

今後の方策

--

## 戦略指標2 調査研究

・学芸員の質の向上 ・地域の研究機関との共同研究 ・地域資料の掘り起こし

### 定量的評価

No.	内容	単位	R4 目標値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	考え方・基準	R4内訳等説明
1	学芸員が講演・講座等の講師を務めた件数(外部での実施を含む)	件	15	-	12	19	当館学芸員による講師件数。ギャラリートーク、学校対応、展示ガイドは含まれない。出前講座は含む。連続講座は1回。	展示関連講座9件(古墳2・新指定・蜷塚2・家康伝承4)、連続講座2件(家康伝承調査・初歩の古文書)、出前講座4件(原始古代2、地域史、家康伝承)、外部依頼4件(原始古代2、地域史2)
2	学芸員の学術的著述本数(外部での掲載を含む)	本	3	-	3	6	館報・図録・報告書や、外部研究誌等へ記名の著述掲載本数。連載は1本。1人1本目標。	学芸員A:2本(外部・館報)、学芸員B:3本(図録・館報2)、学芸員C:1本(館報)
3	学芸員が調査に出向いた件数	件	20	-	24	27	外部での資料調査、熟覧、視察など。同一調査に複数回でも1件。	歴史20件、民俗5件、考古2件 ※特別展(家康伝承)関連が多い
4	他機関と連携した調査研究の件数	件	6	-	6	5	大学、機関、研究者等との調査研究連携件数。イベント等のみは含まない	静岡文芸大(染色型紙)、静岡大2(滝沢鍾乳洞・蜷塚遺跡)、根堅遺跡調査団、大橋幡岩資料調査プロジェクト(大橋ビアン)

### 定性的評価 (A達成 Bおおむね達成 Cもう少しで達成 D達成していない)

No.	評価項目	R3 自己評価	R3 委員評価	R4 自己評価	判断基準	自己評価理由
1	市役所の組織の中で、博物館が調査研究施設として位置づけられている。	C	C6人 D2人	C	・調査研究とその他業務における適切な業務量のバランス配分と役割分担がされている	・調査研究の必要性は共有され、他業務との配分も是正を進めたが、十分とはいえない。
2	調査研究の環境が保たれている。	D	B1人 C4人 D3人	C	・調査研究に必要なスペースが確保され、機材が適切に配備されている	・館内の資料や物品の整理を進めたが、調査研究スペースは十分ではない。 ・機材の更新は未実施だが準備を進めた。
		C		・調査研究スペースにおいて整理・整頓が日常的に行われている。	・調査研究スペース確保のための整理・整頓の実施は継続中である。	
		B		・調査、視察、研修、有識者指導など学芸員の資質向上に必要な予算が確保されている	・図書購入費や出張費等の予算はおおむね確保されている。	
3	博物館が市民や外部の組織などから調査研究施設として位置付けられている。	C	B3人 C5人	B	・設定されたテーマに基づいた調査研究が計画的に行われ、講座等で市民に還元している。	・「家康伝承」は特別展、冊子、講演等によって市民に還元を図った。「蜷塚遺跡」も調査研究途上であるが、展示、講座等で情報を提供した。
		B		・学芸員が外部機関との共同研究に参画している	・「機械染色の型紙」は大学側と覚書を締結して整理作業や展示等を行った。	

### 自己評価

分析・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>学芸員が行政的な業務等も抱え、調査研究スペースも十分ではない中でも、調査研究の重要性についての共有は図れてきた。講座や学術的著述、資料調査は精力的に行われた。</li> <li>「家康伝承調査事業」については成果を展示や冊子、講演等で市民へ還元した。その他「蜷塚遺跡」「伊場遺跡群」、静岡文化芸術大学との「浜松の染色の型紙」共同研究など継続中の調査研究については、タイミングを見ながら成果を公開していく。</li> <li>外部機関との連携した研究は行われているが、資料の提供が中心になりがちである。</li> </ul>
-------	--

### 博物館協議会からの意見・評価

氏名:	定性No.1	定性No.2	定性No.3	意見・評価・提案等
見直し(要or不要)				
評価(A~D)				

### 今後の方策

戦略指標3 展示・教育普及活動

・浜松市と関連のある展示の企画 ・学校や地域と連携した講座やイベントの開催

定量的評価

No.	内容	単位	R4 目標値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	考え方・基準	R4内訳等説明
1	年間観覧者数(本館)	人	35,000	24,032	29,311	31,547	本館合計(アウトリーチを除く)	新型コロナの影響から回復傾向にある。
2	年間観覧者数(分館合計)	人	25,000	18,108	21,762	22,859	5館合計	舞阪5,048人、姫街道と銅鑼資料館3,981人、浜北12,047人、春野1,190人、水窪593人
3	企画展開催件数	件	6	8	7	8	特別展、テーマ展、小展示が対象(スポット展示や外部での展示は含めない)	特別展1件、テーマ展3件、小展示4件
4	【新規】企画展の満足度	点	7.5	-	7.5	7.7	特別展・テーマ展におけるアンケートでの平均値(10点満点)。展示毎に算出し、その平均値。	特別展(三方ヶ原)8.1、新指定文化財展7.8、蜷塚7.5、家康伝承7.5
5	【修正】分館における企画展開催件数	件	12	13	18	23	本館巡回展や企画展のほか、分館の所管部署や指定管理者主体の展示も含む。	本館主体14件、分館主体9件
6	【新規】講座開催件数	件	10	-	9	14	館主催の講演会・講座の回数。ギャラリートーク、出前講座は含まず。連続講座は1回。	展示関連講座12件(うち講演会2件)、連続講座2件
7	【新規】体験事業満足度	点	95	-	99	9.3	学校長期休暇時の体験学習のアンケート平均値(10点満点)。事業毎に算出し、その平均値。 ※年度途中より10点制に変更	GW:未計測、夏9.1、冬9.4、春9.4
8	学校移動博物館(職員派遣型)開催件数	件	6	8	10	9	学校へ博物館職員が出向く形での展示・体験学習の実施件数。	篠原、与進北、芳川、上阿多古、豊岡、可美、和地、西気賀、伊佐見
9	教材貸出件数	件	100	101	99	94	学校等への教材用資料や体験学習用具の貸出件数。	学校移動博物館(貸出型)61件、それ以外の貸出(個別資料、体験道具等)33件
10	各種研修生の延べ受入人数	人	100	145	77	161	博物館実習、インターン、職場体験、教職員研修などの延べ人数。	博物館実習108人(18人×6日)、職場体験20人、教職員研修23人、インターン10人(2人×5日)
11	【新規】常設展内の資料更新回数	件	4	-	2	5	常設展の部分的な展示更新の回数(期間限定の逸品展示を含む)。	中世3回、縄文1回、全体のパネル・キャプション修正
12	【新規】レファレンス対応件数	件	45	-	31	80	来館、メール、電話等による件数合計。	うち特別展・徳川家康関連問い合わせ 29件

定性的評価 (A達成 Bおおむね達成 Cもう少しで達成 D達成していない)

No.	評価項目	R3 自己評価	R3 委員評価	R4 自己評価	判断基準	自己評価理由
1	本館は、市内の歴史文化について正確でわかりやすい解説が行われており、市内外の人が浜松市を理解し、知的好奇心を満たすことができる場である。	D	B4人 C4人	D	・常設展の魅力向上に取り組むとともに、UD化を進めている。	・中世中心に修正や配置変更を行ったが、音声ガイドなどのUD化はまだ進められていない。
		B		B	・計画的な企画展の開催により、収蔵資料を効果的に公開している。	・特別展を中心に計画的に行ったが、施設的に重要資料の借用・展示が難しい面があった。
		B		B	・展示や教育普及事業において、デジタル技術を活かした効果的な事業展開を行っている。	・Wi-Fiを導入しQRコードによる展示資料の情報提供を行ったほか、動画配信や申込のオンライン化などを行ったが、双方向性の事業はまだ行っていない。
		B		B	・速報展など時節や市民ニーズに即応した柔軟な事業展開を行っている	・大河ドラマに合わせた家康関連展示や、新指定文化財の速報的展示など、計画的かつ柔軟に行った。
2	分館は、各地域の歴史文化について正確でわかりやすい解説が行われており、知的好奇心を満たすことができる場である。	B	B8人	B	・各地域の特色を生かした常設展示が行われている。	各地の文化財や歴史に関する常設展示を残しているが、長年更新されず情報が古い面がある。
		B		B	・各分館の地域の人々や担当者の意見や要望が、企画展示等の事業に反映されている。	各分館の担当者や調整して企画展の内容を決定しており、各担当部署や指定管理者が自主事業も行っている。周知の面で課題を残す。
3	(内容変更)学校の学習内容に即した見学・体験のプログラムを行うとともに、授業を支援する教材を提供している。	A	A7人 B1人	A	・主に小学校3年生と6年生の学習内容に合わせた見学・体験プログラムが構成されている。	3年生には昔の道具の体験や展示、6年生には遺跡見学や展示解説などを用意している。
		A		A	・学校のニーズ等を把握し、見学・体験プログラムの改善に努めている。	学校移動博物館を学年ごとでも柔軟に対応し、各学区の資料や歴史資源の紹介に努めている。
		C		C	・デジタル技術を用いたオンライン上での学習支援を進めている。	子供向けページの作成、双方向性の授業などの検討をしているが実施には至っていない。
4	(新規)市民に学びの場を提供している。	C	B6人 C3人	C	・来館者が理解を深められるような効果的な講座や展示解説等を開催している。	講座や展示解説は、企画展時や学校長期休暇時中心に開催しているが、定期的には行っていない。
		B		B	・レファレンスには丁寧に対応し、適切な説明を行っている。	市民のレファレンスや資料閲覧スペースは無いが、丁寧な対応、適切な説明を行った。
5	浜松の歴史や文化を題材とした体験事業を行っている。	A	A3人 B5人	A	・展示や講座等と関連付けた体験学習事業の開催により学習の相乗効果が高められている。	銅鑼づくりやアイロン体験など、常設展関連メニューのほか、企画展等の内容に沿ったメニューを心掛けた。
		B		B	・幅広い層が学びながら楽しめる体験学習プログラムを開発している。	長期休暇を中心に家族と一緒に楽しめるメニューを用意している。一方で大人向けプログラムが少ない。

自己評価

分析・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>観覧者数は、本館・分館ともに新型コロナの影響から持ち直している。大河ドラマ関連の特別展・テーマ展で若干増えたが、家族連れ対象の体験学習の日数を減らした影響で、全体では微増に留まる。</li> <li>常設展は展示内容の改善を進めているがまだ不十分であり、ある程度抜本的な更新が必要である。企画展はほぼ計画通り実施することができた。</li> <li>分館の展示については、更新の少なさが課題である。ニーズを踏まえながら各地域の特色ある資料を生かした取り組みが必要である。</li> <li>教育普及事業は、講座や展示案内が不定期であること、体験学習に大人向けプログラムが少ないこと、</li> <li>学校連携事業は、基本的に順調に行っている。来館できない学校へのオンラインでの対応が進んでいないことが課題である。</li> </ul>
-------	---

博物館協議会からの意見・評価

氏名:	定性No.1	定性No.2	定性No.3	定性No.4	定性No.5	意見・評価
見直し(要or不要)						
評価(A~D)						

今後の方策

--

戦略指標4 市民協働

・地域を特徴づける資料収集と保管 ・資料データ化と収蔵資料の充実 ・地域の文化を地域で保管活用

定量的評価

No.	内容	単位	R4 目標値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	考え方・基準	R4内訳等説明
1	地域団体等と連携した事業の実施件数	件	3	1	4	3	自治会や市民団体等との連携による館内・蜷塚公園・伊場公園を利用したイベントなど(連続するものは1件)	映写会・タケノコ掘り(自治会)、昔話の語り聞かせ(市民団体)
2	【新規】市民参加型事業の開催件数	件	2	-	2	2	共同調査、意見聴取型WS、協業などの件数	家康伝承調査事業、蜷塚遺跡の整備を考えるWS
3	逸品陳列開催件数	件	3	0	1	1	外部の店舗や施設から依頼を受けて出張展示を行った件数	浜松市三ヶ日図書館(猪久保銅鐸複製品)
4	出前講座等開催件数	件	10	1	8	11	依頼を受けて講座に出向いた件数	サークル、観光ボランティアガイド団体等4件、学校3件、行政機関主催事業の依頼4件
5	他団体共催事業件数	件	5	7	6	5	展示、講座、イベント等。 ※共同の調査研究は含まない	中日新聞(新聞切抜作品展)、豊橋市自然史博物館(干支展)、文芸大(型紙展示)、お話つむぎの会(旧高山家住宅で昔話の語り)、市教育研究会(社会科自由研究優秀作品展)
6	ボランティア参加延べ人数	人	500	492	442	356	ボランティアの延べ活動人数(研修除く)	講座や体験の補助、学校見学の案内や補助、展示ガイド、和綿づくりなど
7	ボランティア養成事業開催回数	回	6	6	8	10	講座、報告会、実習等の資質向上に関する事業の開催回数	

定性的評価 (A達成 Bおおむね達成 Cもう少しで達成 D達成していない)

No.	評価項目	見直し	R3 自己評価	R3 委員評価	R4 自己評価	判断基準	自己評価理由
1	博物館の事業運営をボランティアなど市民協働で推進している。	必要	B	B8人	B	ボランティアの募集・育成・活動の拡充を進めている	ポスターやHP等で募集し、講座で育成し、体験学習の補助や展示ガイド等を行っているが、人材や内容が固定化している面がある。高齢化も進む。
			B		B	ボランティアにインセンティブ(講座等事業の優先利用や個別サービス等)や企画提案の場を用意するなど意欲向上の取り組みを進めている	講座や見学会等には運営補助を依頼しながら優先的に参加させている。また意見交換等を行っているが、本格的な企画提案には至っていない。
			B		B	シティプロモーションを意識した事業展開を進めている。	市民の関心の高い事業(家康伝承調査等)を市民協働で実施した。
2	(内容変更)博物館の事業が、新たな文化創造や社会の課題解決に寄与している。	必要	B	B4人 C4人	B	市民団体等の活動に対する支援を行っている。	依頼を受けて、観光ガイドの研修講師を務めたり、学習への助言等を実施している。
			C		C	社会の課題解決に向けた事業展開を図っている。	障害者等の受け入れはソフト面では個別対応しているが、ハード面の対応(音声ガイド、ハンズオン等)は行われていない。
3	地域との連携が良好な関係性のもとで行われている。	必要	B	B7人 C1人	B	市民団体等に博物館や遺跡でのユニークメニューでの活用を促進している。	自治会のイベントや映写会などに会場を提供している。
			B		B	地域との連絡・調整体制が築かれている。	自治会とは必要に応じて連絡を取り、相談している。
4	各分館が地域の特色を示すとともに課題解決の場となっている。	必要	B	B8人	B	分館の事業に対する感想や要望を把握し、課題の改善に努めている。	直接または分館担当者を通じて地域の意向や要望を汲み取っている。
			B		B	分館担当者や指定管理者との定期的な連絡・調整の場を設定している。	年に1回担当者会議を行うほか、随時協議して意向を確認しながら決定している。

自己評価

分析・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示解説や体験学習、調査事業など、市民が主体的にボランティア活動や事業に参画する場を設けている。若年層のボランティアも一定数存在するものの、その多くが学生や会社員であることから参画できる日数が限られており、平日の学校団体見学时に主力となる層の高齢化が課題となっている。</li> <li>・地域のイベントは新型コロナウイルスの影響も減少しており、出前講座やまちかど逸品陳列も含めて一時期より要望が増えている。</li> <li>・各分館では地域に根差した事業が展開されているが、運営主体の取り組みに地域差が生じている。</li> </ul>
-------	--

博物館協議会からの意見・評価

氏名:	定性No.1	定性No.2	定性No.3	定性No.4	意見・評価
見直し(要or不要)					
評価(A~D)					

今後の方策

--

戦略指標5 情報の発信と公開

・SNSによる情報発信 ・多言語対応ガイドシステム導入 ・観光訪問者への情報提供

定量的評価

No.	内容	単位	R4 目標値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	考え方・基準	R4内訳等説明
1	SNS更新回数	回	1,900	379	215	1,936	年度末時点におけるツイッター、インスタグラムのフォロワー数	R3までの更新回数からR4よりフォロワー数に変更
2	HPアクセス数	件	80,000	-	75,501	85,522	博物館HPのトップページアクセス数。広聴広報課で把握。	目標値の半分に満たなかった。トップページ以外の閲覧数は計測していない。
3	アップした動画の平均再生回数	回	500	-	642	391	年度内にアップした動画の年度末時点の再生回数の平均値	「講座浜松の横穴式石室」435、「古墳発掘調査報告会」752、「講座浜松地域遺産」211、「講座」ペイトン号」165
4	報道取り上げ回数	回	100	151	84	52	新聞・ラジオ・TV・雑誌等の取り上げ回数	新聞13回、ラジオ2回、TV8回、雑誌等9回、ネット20回 ※資料紛失にかかる報道を除く

定性的評価 (A達成 Bおおむね達成 Cもう少しで達成 D達成していない)

No.	評価項目	見直し	R3 自己評価	R3 委員評価	R4 自己評価	判断基準	自己評価理由
1	効果的な情報発信の手段や方法が選択されている。	必要	A	B8人	A	過去の実績やアンケート等に基づき、事業の規模や対象に合った情報発信手段(広報誌、ポスター・チラシ、広告、HP、SNS等)を適切に選択している。	子供向け事業は広報効果の高いチラシを学校を通じて配布するなど、内容により配布先や部数を変えたり、速報性・ニュース性の高いものはインターネットでの広報を強めるなど工夫した。
			C		C	・収蔵品検索システム「ある蔵」の、内容の充実と見やすさの改善に努めている。	利用の多い資料をトップページに配するなど、見やすさや利便性向上に努めているが、構造的な限度がある。情報量の増加にも努めているが途上である。
			B		B	・積極的な報道発表を行い、報道機関を通じた情報発信に努めている。	市政記者クラブのほか、インターネットメディア等にも情報提供を行った。記者が記事にしやすい資料構成などを検討の余地がある。
2	市内外の幅広い層に向けて博物館の周知を行っている。	必要	C	B5人 C3人	C	・展示解説やパンフレットなど多言語化への対応を進めている	常設展の英訳の修正を行ったが、外国語の音声ガイドやパンフレットは未作成である。
			B		B	・観光施設や宿泊施設等との連携を深め、博物館の広域的な周知に努めている。	チラシやパンフレットを配架してもらい、一部ではSNSで相互にフォローするなど連携している。
			B		B	・地域の魅力を紹介することで、地域に対する関心を高めることができたか。	地域の歴史資源や資料を紹介した。
3	博物館の多様な所蔵資料や活動内容についての情報を発信している。	必要	A	A1人 B7人	A	・刊行物(図録、博物館報、博物館だより、博物館情報等)が計画通り発行されている。	計画通り発行した(図録2冊、小冊子2冊、館報、博物館だより3通、博物館情報6通)
			B		B	・HP等における事業の動画や資料、収蔵品の情報などにインターネットを活用した来館できない人向けの情報提供に努めている。	講座の動画配信を行った。また、中央図書館の「浜松文化遺産デジタルアーカイブ」と連携し、資料の追加公開とダウンロードの準備を進めた。
			B		B	・SNSでは事業の開催周知だけではなく、日々の活動状況も公開することで、博物館事業への理解が深められるように努めている。	学校移動博物館の様子や販売品の紹介などの情報を発信した。

自己評価

分析・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>来館者アンケートの結果からは、来館者の情報源はチラシや広報はままつなど、紙媒体の方が依然として多いが、インターネットの情報で訪れる人も増えている。そうした動向や、市のデジタル化・ペーパーレス推進の政策も踏まえると、今後はオンラインによる情報発信に移行する必要がある。</li> <li>公開されている収蔵品検索システム「ある蔵」は、見やすさ、使いやすさの面でやや使いにくい面が残る。</li> </ul>
-------	---

博物館協議会からの意見・評価

氏名:	定性No.1	定性No.2	定性No.3	評価・意見
見直し(要or不要)				
評価(A~D)				

今後の方策

--